

令和3年度 調布市立富士見台小学校 学校経営計画（学校長 内藤 みゆき）

学校の教育目標

- ㊦ 深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）
- ㊧ 自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童）
- ㊨ 自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）

目指す学校像(ビジョン)

言葉と学びを大切にし、自ら伸びる力・協働する力を育成する学校

ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	・明るく素直な児童が多いが、学力・体力ともに二極化傾向がある。児童アンケートから、全体として主体性や物事への粘り強さに課題が見られる。新型コロナウイルスの影響で従来型の活動に制限がかかる中であるが、体験的な学習や協働的な学びを工夫し、意欲や粘り強さを引き出し育てていく必要がある。 ・学習・生活規律や基本的な生活習慣の一層の定着を図るとともに、個別に支援を要する児童については全体で見守り、保護者や関係諸機関と連携を図りながら、個に応じた支援・指導を工夫し、充実を図っていく必要がある。 ・学力向上や生活指導の充実のために、教員の指導力向上を組織的に図っていく必要がある。
-------------------------	--

中期的な経営目標

- 1 自己指導能力を高め、自他を愛し、自律した行動ができる児童を育成する。
- 2 基礎基本を定着させ、すすんで考え、表現し、対話的な学びを通して考えを深めていく児童を育成する。
- 3 健康保持・体力増進に努めるとともに、自ら考え、判断し、粘り強く実践する児童を育成する。
- 4 学習及び生活の基盤となる言語活用能力の向上を目指し、言語環境を整えるとともに読書活動の推進や対話的な学びの充実を図る。
- 5 特別支援教育を推進していくとともに、通常の学級・特別支援学級・特別支援教室の組織的連携を図る。
- 6 保護者・地域との連携及び協力を推進し、教育活動の充実と安全確保を図る。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 月1回の校内委員会や週1回の生活指導夕会での情報共有を、児童への組織的な対応につなげる。また、年3回のアンケートを中心に、児童の困り感等を汲み取り、適切な支援につなげ、自己肯定感を向上させる。	① 全教室統一の掲示「声の大きさ」「ハンドサイン（納得・同じ・別の意見など）」を活用して指導することで、意見交流の基礎指導を校内共通で行う。また、「学習&生活のルール」を全校で共有し、規律の定着を図る。	① 年3回の食物アレルギー研修及び対応訓練の実施を通して、対応マニュアルの周知徹底と確実な実施を行い、正しい知識を児童に身に付けさせるとともに、教職員の危機管理意識を高度に保つ。
② OJT ミニ研修（年間10回）やいじめに関する授業の実施を通して、教員の指導力向上を図りつつ、児童の自己理解・他者理解を深めていく。	② 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組み、ノート記述やiPad活用のバランスを工夫しながら、考えをもたせ表現させる時間を大切に授業づくりに努める。	② 主体的な学びを目指し、学期ごとの目標や学習活動でのめあて等を明確にして取り組み、事後の振り返りを大切にして、粘り強く課題に向かう姿勢を育む。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケート(児童)において、学校が楽しいと肯定的な回答95%以上を目指す。	① 学校関係者評価アンケートにおいて、「学力の定着」「規範意識定着」の各項目への肯定的な回答85%以上を目指す。	① 食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例のゼロを目指す。
② 学校評価アンケート(児童)において、多様性への理解を問う項目の肯定的な回答90%以上を目指す。	② 学校評価アンケート(児童)において、学習に対する達成感への肯定的な回答85%以上を目指す。	② 学校評価アンケート(児童)において、学習の達成感や運動への主体的取り組みを問う項目への肯定的な回答85%以上を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 言語活用能力の向上	5 特別支援教育	6 地域との連携
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 考えを「もつ」「表す」「伝え合う」「深める」授業実践を積み重ね、思いや考えを言語化する活動を通して、言語活用能力の向上を図る。	① 新型コロナ感染の状況を鑑みつつ、例年実施している毎週火曜日の交流給食（特別支援学級児童と通常の学級児童との日常的な交流）を開始し、多様性尊重への理解促進を図る。	① 昨年度発足の「地域学校協働本部」の活動を充実させ、地域人財の掘り起こしと活用を図る。新たに漢字検定に取り組み、児童の学習意欲向上につなげていく。
② 年間2回の読書旬間を中心に読書活動を推進するとともに、日常的な言葉遣いの指導等を通して、言語感覚を養い、豊かな言葉の獲得を目指す。	② にじいろ教室（特別支援教室）での指導が、在籍学級での指導・支援に活かされるように、専門員やコーディネーターを窓口として、円滑な連携が図られるようにする。	② ゲストティーチャー等、外部人材の活用による体験的な学習の充実を図るため、「地域学校協働本部」のコーディネート力を生かしていく。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケート(児童)において、言語による表現活動への肯定的な回答90%以上を目指す。	① 学校関係者評価アンケートにおいて、交流学習や自他を認め合う教育の充実に関する肯定的な回答85%以上を目指す。	① 学校関係者評価アンケートにおいて、学校と地域の方々との連携に関する肯定的な回答85%以上を目指す。
② 学校関係者評価アンケートにおいて、言語による表現活動への肯定的な回答90%以上を目指す。	② 校内学校評価アンケートにおいて、特別支援教育の充実や様々な連携に関する肯定的な回答85%以上を目指す。	② 学校関係者評価アンケートにおいて、体験的学習等の充実に関する肯定的な回答80%以上を目指す。

人材育成・組織運営

- ・主幹教諭をリーダーとする校内組織を活かしたOJTの充実を図る。（若手教員の育成・主任教諭の活用）
- ・職層に応じた職責の自覚を促し、校務改善及び授業力の向上を推進していく。